

修 士 論 文 要 旨

（ 特 定 課 題 ）

看護学専攻 老年看護学分野	学籍番号 221604 氏 名 芝原 弥千代
論文題目	尿もれ現象のある自立高齢男性の思い
キーワード	尿失禁 高齢者 排尿 心理
<p>＜研究背景・目的＞高齢者が排泄を自立して遂行できることは、健康や尊厳を維持するうえで重要である。一方で、加齢にともなう排尿機能の変化は高齢者の生活に大きな影響があり、特に尿もれ現象は他者との交流の障壁となり社会生活の不安につながるということが示唆されている。そして、特に男性は、自身の弱みを表出しにくく誰にも相談できずに不安を抱いているのではないかと推測される。そこで本研究では、尿もれ現象のある自立高齢男性の思いを明らかにする。</p> <p>＜研究方法＞研究協力に同意を得られた65歳以上の尿もれのある自立高齢男性7名にインタビューガイドに沿って半構造化インタビューを行い、質的帰納的に分析した。本研究は、三重県立看護大学研究倫理審査会の承認を得た。（通知書番号212802）</p> <p>＜結果＞尿もれ現象のある自立高齢男性の思いについて11のカテゴリーが抽出された。【尿もれ現象に忍従している】【これは歳だから仕方ない】は、加齢による排尿機能の低下から起こる切迫した尿意や頻回に感じる尿意から、【尿もれ現象のために何度もトイレに行くのが辛くて困る】【昼夜問わず尿が出てしまうことは嫌だ】という思いが明らかになった。対象者は、尿もれ現象は加齢によるもので仕方がないという思を抱きつつも、尿もれ現象以外にもいくつかの身体機能低下を経験していることから、【尿もれ現象は老いや死を感じさせ不安だ】という死をも容易に連想させることが明らかになった。そして【尿もれ対処製品はつけ心地、見た目が悪くて嫌だ】【尿もれ対処製品を使うことで安心できる】【尿もれ現象を自分なりの方法でがんばりたい】と尿もれ現象の知識や対処方法を自分なりに模索し試した結果、尿もれ対処製品に対して肯定的な思いと否定的な思いを抱いていることが明らかとなった。【尿もれ現象の知識や情報がわからないのは不安だ】【医療の力で頻尿が改善することに期待する】【尿もれ現象があることを友人や妻に理解してもらえて安心した】という尿もれ現象の知識とその対処方法がわからなかったことで不安な気持ちがあったことと同時に、相談場所や共感される思いがあったことで安心できる思いが明らかになった。</p> <p>＜考察＞尿もれ現象のある自立高齢男性の思いは、その事象に対する思い、対処製品の使用についての思い、相談先や支援への思いが明らかとなった。尿もれの事象や相談先などについての思いは、中高年女性の抱く思いと相違は見られなかった。しかし、対処製品の使用についての思いは、男性独自のものがあり、慣例としての対処製品などの使用経験のないことが戸惑いや躊躇いとなり不安を抱かせていることが示唆された。</p>	